

学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 岐阜聾学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月27日(月) 9:30~11:30
- 3 開催場所 岐阜聾学校会議室
- 4 参加者
- | | | |
|-----|-------|--------------------------|
| 会長 | 村瀬 忍 | 岐阜大学 教授 |
| 副会長 | 山村 基翔 | 岐阜県聴覚障害者協会 理事 |
| 委員 | 尾木 大 | 株式会社岐阜セラック製造所 取締役社長 (欠席) |
| | 川上 昭雄 | 本校同窓会長 |
| | 長屋 直江 | 本校PTA会長 |
| | 岩田 順治 | 岐阜市社会福祉協議会 加納東支部主事 |
| | 広瀬みゆき | 岐阜市立加納幼稚園 園長 |
| | 太田 敬美 | 加納東主任児童委員 |
| 学校側 | 安藤 邦寿 | 校長 |
| | 高橋 圭子 | 教頭 |
| | 衣斐恵美子 | 事務部長 |
| | 辻角 真弓 | 幼稚部主事 |
| | 松原多香音 | 小学部主事 |
| | 立川 茂 | 中学部主事 (欠席) |
| | 高橋 史樹 | 高等部主事 |
| | 森 雅明 | 教務主任 |

5 会議の概要 (協議事項)

- (1) 校長挨拶 学校運営協議会の設置及び運営について
- (2) 学校運営協議会委員の委嘱
- (3) 自己紹介
- (4) 会長及び副会長の選出
 - ・会長 岐阜大学教授
 - ・副会長 岐阜県聴覚障害者協会 理事
- (5) 授業見学
- (6) 学校経営計画について
 - ①本校の教育目標
 - ②各部の教育方針及び教育課程と今年度の課題
 - ③本校の組織編制
 - ④年間行事計画

(7) 意見交換

<高等部の選挙の指導について>

意見：高等部では、選挙の投票についてどのように指導しているのか。模擬投票などの指導をしているか。

⇒成人年齢引下げに関する指導とともに、公民科やLHR（ロングホームルーム）などの時間を活用し、全体で指導している。

<高等部系列について>

意見：生徒はどのように系列を決めるのか。

⇒1年生時に説明会を行い、授業体験を実施してから、希望を聞くようにしている。

<学習の進度に差がある子どもへの指導について>

意見：授業の進度に遅れる児童生徒に対してどのように支援しているか。

⇒児童生徒の実態に合わせてグルーピングを行い、習熟に合わせて課題を設定するなどの支援をしている。

<聴こえにくさのある子どもへの音楽の指導について>

意見：リコーダー、ダンス、音楽などは聴覚障がいのある子どもたちには難しいと考える。どのような方法で授業を行っているのか。

⇒リズムやテンポを視覚的にとらえることができるように、音と光で表すメトロノームを使用したり、音を振動にかえる機械を使用したりして音を体感できるようにしている。

<聴覚障がいの理解について>

意見1：校内での授業公開による教員相互の学び合いは、大事な授業改善の手段である。実際の授業を互いに見合い、切磋琢磨することが望ましい。働き方改革の面からもそのようにするとよい。

意見2：聴覚障がい理解イコール手話を学ぶことではなく、「他に何を学ぶ必要があるのか」ということを考えてほしい。例えば、正面から話すなど、もっと基本的で大事なことを地域に出て伝えてほしい。

<コロナ対応によるマスク着用について>

意見：幼稚部から高等部までであるのは聾学校だけであり、よい環境である。幼稚部の教員の表情が豊かであり、見習うべきである。マスクで表情が隠れてしまうことは、幼児期の教育においてもデメリットである。聾学校で職員が透明マスクを使用していることは、児童生徒にとってとても重要である。

<ICT活用について>

意見：聾学校においても、子どもたちの聴覚障がいの実態はそれぞれ違う。今後もアナログとデジタル（ICT）の融合をうまく進めて授業を行ってほしい。

6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・今回、委員の意見を得て、現状に満足することなく、改善点を見出していく視点が大事である。委員の意見を反映して、学校全体の運営を進めていくとともに、常に見直しを図り、子どもたちの教育に必要なことを一人一人の教員が考えていく必要がある。